母校の中高一貫校化への期待（座談会）

－ 令和 ６年 １月 １３日 実施 －

企画・実施　東京桑野会広報部会

〈司会・渡部良朋（91 期）、以下司会〉

母校・安積高校は今年創立 140 周年を迎えます。そして、安積高校創立 141 周年となる令和７年度に福島県立安積中学校が母校に併設されます。そこで、創立 140 周年記念の東京桑野会会報において目玉として「母校の中高一貫化への期待」として座談会を企画いたしました。本日は 86 期から 127 期まで、約 40 年に渡る世代から７名の参加を得て実施できることになりました。ご参加の皆様には大変に感謝いたしております。

安積の中・高一貫校化は、福島県のトップエリートを集めた中等教育の実践として、大変に期待が高いのですが、過去に福島県のトップエリートを集めた英才教育の取り組みが安積高校でありました。それは、1968 年・84 期から始まる「理数科」でした。理数科の初期は、素晴らしい大学進学実績を残したこともあり、「福島県の Top フォーティ」とも呼ばれました。そののち、90 期位から調子が良くなくなり、2000 年３月に閉科いたしました。この歴史の原因について考え、新制安積中学校・高校が真に地元・福島県の期待に応える存在となるには、どのような要件が必要かを議論したいと思います。

では、まず、参加の皆様から、自己紹介をかねて簡単に「今まで何をやってきたか・今何をやっているか」をお話し頂けると幸いです。また、出身小学校・中学校も教えて頂ければと存じます。

〈秋田調氏（86 期）〉

86 期の秋田調と言います。出身は、三春小学校・三春中学校です。理数科の３期生（※86 期相当）です。卒業証書の番号ですが、私は「あ」から始まる名前なので、理数科の卒業生通算番号が２ケタでした。３期生がどんな感じだったかというと、学区は全県一区で遠くから来ていた生徒もいました。どんな進学状況だったかというと、東京大学へは、現役合格・進学が２名、浪人後進学が４名でした。医学部進学が、東北大学や福島県立医科大学を含め 12 名位いました。その理数科クラスが、東京にあった学校のクラスとして

も相当のレベルであったと思います。なぜ、そんなに人が集まったかというと、理数科が３・２・１学年（84 期～ 86 期）と充足してきて、結構すごいらしいという評判が高まってきたこともあるかなと思っています。３年間一緒のクラスだったので、いまでも仲が良くて、毎年同級会をやっています。団結力が強いです。

何をやって来たかというと、東京大学を出て電気物理の修士課程を修了してから研究所に入りました。入った研究所は（財）電力中央研究所でして、電中研には安積の出身者が私を含め、３人おりました。50 歳位までは研究もやっていましたが、その後は研究所のマネジメントをやらされるようになり、最後は専務理事を務めました。退任後は、名誉特別顧問という名刺を貰っていますが、要は無給です（笑）。年金生活者として楽をしていたのですが、昨年の７月から、福島県・浪江町に設立された特殊法人「福島国際研究教育機構」のエネルギー分野の副分野長を拝命しております。エフォートは 40%にして戴いておりますが、ほぼ毎週、浪江に通っております。

〈西田幸雄氏（91 期)〉

91 期の西田です。私の時代は、理数科の転換期だったのかと思います。私が１年生の時の３年生（89 期）の実績は、クラスで中位の成績の人が現役で福島県立医大医学科に合格したということがありました。他にも、普通科の平均点が 45 点の試験で、理数科が 67 点という、まるで別の学校のような成績をとっていたというようなこともありました。

理数科の成績が急にダウンしたというのは、学区の変更の影響もあったと思います。全県一区を改め、学区を狭めた結果、遠方からこなくなって、近場の中学生が損得で普通科を選ぶようになった、というのがあるかと思いました。

私は安高のお膝元、開成小学校・郡山一中の出身でした。当時は一学年 430 人前後のマンモス校で、（男子校である）安高は同学年の 90 人が受験して 55 人合格、35 人は不合格。不合格者のうち 10 名位は中学浪人をして安高に入学しました。当時は、磐城高校の中学浪人が有名でしたが、安積も福島高校も中学浪人が大問題でした。安高も一クラス５～６人の中学浪人がいましたね。93 期相当から、郡山高校が新設されたので、安高の合格ボーダーラインの生徒を吸収する形となったので、浪人問題は軽減されましたが、当時の高校入試は問題が多かったですね。

私自身は、高３時点は理系で、数Ⅲも物理Ⅱ・化学Ⅱもやりました。卒業後文転、１浪して中央大学法学部法律学科に進学しました。司法試験を目指し３浪するもかなわず、26 歳時点で公務員か新聞社くらいしか正規の就職口がない状況で、読売新聞社に拾ってもらいました。定年まで読売新聞社にいて、その後はシニア嘱託で継続して働いています。現在は、読売新聞の戦略の視点から「活字文化を守り抜く」「未来読者の育成」を目標に、「NIE」活動の一貫で新聞から情報を正しく読み解く検定試験などの事業・活動に係っています。今の時代、スマホやネット依存により情報偏食の人やフェイク情報に振り回されている人が増えているという危機感を抱いています。

〈司会〉西田君は、持っている情報の多様さ、情報のつかみ方がすごいといつも敬服しています。それは、西田君の経験や安積での学びの影響が大きいと思っています。実は、今回の座談会は、その内容や出席の皆様を、東京桑野会の皆様のみならず、母校の後輩、母校の先生方さらには生徒の保護者の方に知っていただきたいと思って企画しております。

安積というのは、こんなに多様で深い人材を世に送り出しているんだよ、と。

〈塩谷格氏（98 期)〉

　では続いて 98 期の塩谷格です。出身は桜小学校・郡山第三中学校です。自己紹介の前に、今、秋田先輩、西田先輩のお話を聞いて、質問をしたいと思いました。理数科の成績が段々に低下していった原因が学区変更の影響？（学区変更も一因？）との考察がありましたが、生徒の出身地域の大勢が変わっていたのでしょうか、それとも他に理由はあったのでしょうか？

〈西田〉一因で、すべてではないとは思います。他の理由としては、学習指導要領の改定もあったのではないかと思います。秋田先輩のころは物理Ｂとか化学Ｂという名前だったと思いますが（秋田氏、頷く)、我々91 期の頃は物理Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱになった。理数科は生物・地学・物理・化学のⅠ．Ⅱの全科目が必修だったが、普通科は理系クラスでもⅡまで取るのは２科目でした。

　理数科は数学・理科の全科目履修するために、他の教科の時間が減った。体育は普通科の半分くらい。男子高校生が、体育の時間を減らされて、どうストレスを解消せよというのか、と思います。

〈司会〉そのような情報が中学校に伝わっていって、理数科が敬遠されるようになったのもあるんでしょうね。

〈秋田〉我々は世界史をやっていないんです。今、考えると、ちょっと・・・。

〈塩谷〉過去の経験を整理すると、中・高一貫に活かせる部分は大きいと思いました。

　で、私自身のことですが、安高卒業後、一浪して、東北大学農学部へ入学しました。今、株式会社ニッスイ（旧・日本水産株式会社）に勤務しています。ニッスイは水産の名前が付いていますが、水産よりも食品の売り上げが現状では多いです。私は大学時代は畜産をやっていて、動物の解剖の勉強とかをやっていました。生物を扱える／対象とする仕事につきたくて、いろいろな人に相談してニッスイに入りました。就職活動のころはバブル経済に日本が湧いている時期で、仙台から東京に面接に来る時も旅費や宿泊費を貰えるというような経験をしました。ニッスイに入った後は水産の研究をずっと行っており、大分の研究所などを経て、現在は八王子のニッスイ中央研究所の所長をしております。中央研究所では、水産・食品・医薬品の研究をしていまして、自分はいまは多くの部下の仕事がどうすればうまくゆくかな、という應援團のような仕事をしています。

　高校時代、成績は悪かったので、勉強に関してどうのこうのは言えないのですが、ただ、安積の３年間、歴史と伝統、多様な卒業生、バンカラな校風など心に深く刻まれており、安高で学んだ誇りというのは、卒業後にも強く感じるようになりました。（司会からの事前質問で）高校時代にくだらないと感じた経験はあるか？という質問があったが、私は良い意味でくだらないことを自由にやれたことは良かったと思っています。生徒がやりたいことを、節度をもって許容する、そういった校風が今もこれからも続いていくことを願っています。

〈司会〉私の自己紹介の番ですが、私からは 91 期の担任であった穴澤久作先生の言葉を紹介したいです。卒業アルバムに穴澤先生の言葉が一言、「無駄の効用を知れ」。穴澤先生は、既に鬼籍に入られ、私も穴澤先生が担任をしてくださった時の年齢を大幅に超えまし

たが、その言葉の意味が自分の人生と照らし合わせ意味が分かるようになりました。
〈塩谷〉当時の地理の吉田宏先生が言っていたことですが、鹿児島の鶴丸高校（旧・鹿児島一中）と安積高校を比較して言った言葉が印象に残っていて、鹿児島県民は誰か伸びる人がいるとヨイショしてついていくんだけど、福島県民は誰か伸びるやつがいると皆で足を引っ張る。そうならないようにしないといかん、と。印象に残っています。
〈安孫子哲教氏（115 期)〉
115 期の安孫子哲教です。小山田小学校／富田西小学校・郡山第六中学校の出身です。安高３年生の時、女子の第１期生が入ってきた、歴史的な時代の期です。私も理数科で数学がとても好きで、国語と社会がダメでした。化学・物理を選択して勉強していたのですが、自分がどういう道に行きたいかというのがつかめなくなって、その時に何か人のためになる仕事をしたいと考え、文系ですが弁護士になりたいと思うようになりました。文転したけど、国語と社会ができない（苦笑）ということ一浪の後法政大学法学部法律学科に入り、その卒業後法科大学院に入り、紆余曲折があったのですが司法試験に合格して、今は弁護士として仕事をしております。
安積高校は、私にとって、自由な学校だったなと思います。いろいろな生徒がいて、いろいろなことをやっている。自分も部活（演劇部）を自由にやった。（未来の）安積の生徒に伝えたいことは、安積を好きになってもらいたい、ということです。すごい先輩も多くいるし、自身にとって、可能性を広げることができる学校さと思うからです。
〈秋山綾子氏（119 期)〉
119 期の秋山綾子です。出身小学校・中学校ともに喜多方（市の学校）です。学区外だったのですが、高校教員の両親が郡山市に転勤ということで、安積高校を受験することが出来ました。共学の３期生で男女共学が完成した年の入学です。男子校だったという気配はあったのですが、中学校も共学で高校も共学ということで変わらない楽しい共学生活でした（笑)。
小学校は小規模校で、全校生徒 36 名、同級生が８名でした。中学校は、喜多方第三中学校で４クラスでした。もっと広いところに行ってみたい、自分も高いところでチャレンジしたいということで安積高校を受けました。
私は高校２年生の時、SSH クラス（※SSH：スーパーサイエンスハイスクール）に属していて、体育も美術も音楽も時間数は半分、その代わりに SSH 授業（理数系の科目）を受けました。SSH の研究では、人間の刺激に対するホルモン生成反応を調べたりして、普通の高校生ではできない経験を得ました。自分たちで分からないところは、東京大学の教授に連絡を取って、指導を受けたりしました（他一同、すごいな・・・)。
大学は金沢大学医学部保健学科に進学しました。理学療法士になろうと思ったのですが、大学３年生の時、兄が心臓疾患で亡くなったため、大学での専攻を決める時期でもあり、循環器を専門とする分野へ方向転換しました。心臓を元気に保つためにはどうするか、というようなことを考え、卒業後は北里大学大学院でさらに勉強をすすめました。その後、大学病院に６年間勤め、心臓疾患のリハビリテーションを担当していました。現在は、（一社）ポジティブヘルス協会を設立し、社会教育・会社での研修などを実施しています。高校時代に医学部医学科を目指しましたが、数学と物理・化学の成績が医学科合格までは届

かず、医学部保健学科に進みましたが、その後の紆余曲折を経て現在に至っています。安積の開拓者精神にのっとり、自分の道を作ってきました。

～《SSH クラスに関して、種々、質疑応答》～

〈遠藤祐太朗氏（127 期)〉

127 期の遠藤祐太郎です。大島小学校・郡山第五中学校の出身です。小学校４年生でソフトボール、中学校からクラブチームで硬式野球を始めました。祖父が 66 期、父が 96 期で野球部でした。子供のころから、開成山球場に、安積高校の野球部の応援のため連れて行かれ、安積高校野球部に憧れるようになりました。ほぼ、洗脳だったと思います（笑)。頑張って勉強し、安積高校に入学し、野球部に入りました。野球漬けの高校生活でした。最後の夏は、日大東北高校に敗れて、終わりました。

敗れたあと、さてどうするとなりました。2013 年当時、東京オリンピックの開催が決まり、世間は盛り上がっていました。それまで、野球に明け暮れていたが、その過程でスポーツの怪我への対処法や技術的な指導法について、それまで受けていたものよりもっと深く学びたいと思うようになり、そのような勉強ができる大学はどこだろうかと調べた結果、早稲田大学スポーツ科学部に行きました。一浪の後、早稲田大学スポーツ科学部に合格することが出来ました。大学に入ってから、多くの専攻からスポーツビジネスの分野に興味が湧き、それを選び勉強しました。

今、何をやっているかというと、富士通株式会社で営業をやっています。スポーツ関連の情報システムを扱う部署です。新しいシステムを来年 3,000 店舗に導入する計画があり、大変に忙しく仕事をしています。スポーツビジネスに係る分野で仕事が出来ていて、とても充実しています。

〈司会〉皆さんのお話をお聞きして、展開力がすごい、と思わざるを得ません。スゴイ・・・。

〈司会〉出席の皆さんで、さらにお話ししたり、相互に質問したいということがありましたら、お願いいたします。

〈秋田〉安高時代の特別な経験として、１年生の夏休みに東京教育大学（現筑波大学）の下田臨海実験センターにおいて実習を受けたことがあります。松本敏則先生（東京教育大学出身）がアレンジしてくれたと記憶していますが。そこで、ウニの受精の実験・観察をさせて貰った。他にも海生生物の採取や観察もさせて貰った。あれは大変に印象的な経験でした。先ほどの秋山さんの SSH クラスの話ありましたが、皆さんは、安積でそのような経験はありましたか？

〈秋山〉２つあります。SSH クラスで、みんなでバスで東京大学のキャンパス見学に行きました。日本で最高峰と言われる大学のキャンパスを、クラスの仲間でワイワイと見学できたのは、SSH ならではことだったと思います。もう一つは海外研修です。上海とかアメリカとかに２週間程度研修で行けたというのは、そういうプログラムが学校で準備されているということで、保護者にも安心できるものだと思いました。安積高校のオフィシャルとして、そのようなものが準備されているとしたら、もし私が今、小学校６年生や中学校３年生だとしたら、安積中学校や安積高校に行ってみたいと思うだろうと感じます。また、私の友人も上海に研修で行ったあと、大学は富山大学に進学しその後上海大学に留学し、現在は外資系の企業で海外生活を送っている人がいます。

〈秋田〉最近の新聞に書いてあったことですが、関東圏とその他の地域で一番違うのは「経験」だということでした。郡山にいるとあまりいろいろ経験はできないが、安積中学校に入ったら関東圏と同じ経験が出来る、となればそこだけで人生、結構な差が付くということになるのでないでしょうか。
〈司会〉先ほどの東京教育大学下田臨海実験センターの話ですが、この施設はとても有名な施設で、松本敏則先生が大学に話を通して研修をさせて貰ったということを聞いています。ただ、90 期の時に、レベルが芳しくない生徒がいて、91 期は取りやめになったということも聞きました。私の同期でも、それがやりたくて理数科に入ったのに、入ってみたら取りやめになった、そんなの有りかよ、とすごくがっかりしていた人がいました。
　母校の先生方の持っている力というのは、実は、すごいものがあります。いろんなところにコネクションを持っていて。そういった先生方が、安積にいる、というのがとても重要なことと感じています。
〈秋山〉安積を卒業した先生が、出身大学や他校での経験を母校・安積に持ち帰り、強い思い入れを持って教育にあたっているというのが、大きな特徴だと思います。喜多方ではそういうことはありませんので。
〈秋田〉高校時代に残念だったこと、ということでは無いのですが、三春と郡山を往復する生活では、英語に触れる機会がほとんどない、後から思いました。高校時代、英語の成績がめちゃくちゃだったので、大学合格を報告にいったら、良くあの英語の成績で入ったなと担任の先生に言われました（苦笑）。安積中学の生徒さんには、英語の経験を多く積む場を多く設けて欲しいですね。
〈秋山〉郡山ってインバウンドの訪問者が少ないですね。郡山の魅力を伝える機会を、高校生で英語で発信してもらう機会を設けるとか。学校だけではできないと思いますが、機会創出を図ることができないものでしょうか。
〈秋田〉昨年９月　ホテルはまつを会場に、RG20 という G20 の研究開発の関係者の会議がありました。私はそれに参加していましたが（皆にスマホの写真を見せる）、これは郡山に産業技術総合研究所福島再生可能エネルギー研究所（AIST FREA）や浪江に水素の研究拠点があります。その関係で、郡山で国際会議が開催されました。そんな国際会議に、安積中学校の生徒がアテンドするような機会があったら、大変に良い機会になるのではないかな、と思います。
〈司会〉そんなことが出来たら、すごいモチベーションになりますよね。〈司会〉今までの話を聞いて、皆さん安積高校に入学するにあたって、親や地域の期待というものがあったと感じました。それを踏まえて、“もし出身小学校の後輩が新設安積中学校に入学したら、どのような中学校生活に取り組んで欲しいか”、そして （“ 新設安積中学校に進学せず、）３年後に出身中学校から安積高校へ進学する後輩がいたとしたら、その後輩にはどのような言葉を贈りたいか”、ということをお聞きしたいと思います。
〈塩谷〉安積中学校は、福島県立医大医学科への合格者・進学者を増やすために作った、という話を聞いたが、そうなんですか。
〈司会〉そうだと思います。県教育委員会の資料では、ちょこっと、医学部医学科への進学者を増やす、ということが書かれていますが、実はミッションはそこにあるということ

を色んな人から聞いています。なぜかというと、福島県立医大医学科への進学者で福島県出身者の占める割合が低いのです。東京の中高一貫校に荒らされているのが現状です。そのような出身者は福島に残らない。
〈司会〉秋田さんや私が勤務していた電力中央研究所は、その研究員の出身校を調べると全国の名門進学高がずらりと並びます。研究員には、恐ろしく頭がいいなという人が、何人もいます。その人たちの話を聞くと、学校時代は本当に自由に熱心に、勉強や部活、学校行事に取り組んでいたようです。
〈秋田〉私は、電力中央研究所時代、職員採用の責任者でしたが、研究員採用の際に見るのは成績表ではなく地頭の良さでした。そうでないと研究者として伸びない。いくら良い成績表が付いていても、話をすると能力はすぐに分かってしまう。だから、電中研は変な集団になってしまう（苦笑）。
～《中学校・高校のクラス編成のやり方について、種々、質疑応答》～
〈西田〉県は、少子高齢化の進行と県人口が 2050 年には 2022 年の 68%まで減少の予測で、医療従事者確保が急務だと。いろいろ学校は考えているようです。深堀学習を中心に据るなど。
〈秋田〉医学部医学科への合格者・進学者を増やしたいと思いは理解するが、もうちょっと大きな希望を持って欲しいなと思います。郡山を中心とした福島県央はどこか大陸的な雰囲気を持つ地域で、突出した能力を持つ人間が出てくるところだと思っています。だから、安積中学校の生徒には、県立医大医学科位は入ってね、というような気持ちで見守りたいです。
〈一同〉（頷く）
〈遠藤〉今、私が小学生だったら安積中学校を目指したいと思います。安積高校に学んだから、今の自分がいると思っています。中学生や高校生が周りから受ける影響はとても大きいです。小学生で、自分の将来を考えている人なんて殆どいないと思います。中学校で経験することについても、教科書を
勉強しているだけでは深堀学習などあまり期待できないと思うけど、学校の外に出ていろんな経験ができれば視野が広がってくると思います。それが自由にいろんなことが出来る安積中学校には、期待できると思います。
〈塩谷〉母校の先生や我々OB が、そういったことに寄与できると良いですね。
～《中学校の選別方法について、種々、質疑応答》～
〈秋山〉安積は、おもいきり自分でいられる環境だよ、と伝えたいですね。
〈司会〉本日は、長時間に渡り、ありがとうございました。

※）本稿は、東京桑野会会報 No.４６号に掲載された記事を転載したものです

（文責）　　東京桑野会広報部会会報編集委員会

上段左より：渡部、塩谷、安孫子、遠藤　　前列左より：秋山、秋田、西田